



第六回『森とせせらぎ祭り』について

実行委員長 平井資嘉寿

今年も祭りが近づいて参りました。今年、森とせせらぎ祭りなのに「せせらぎでは何もやっていない」という昨年までの建設的な意見や反省に基づいて、メイン会場(橋公園)で殆どの演目その他を行うのではなく、新たに趣向を凝らし「せせらぎ浴線」で出来るものはせせらぎ浴いでやってみようということになりました。

せせらぎの基点である、太陽幼稚園前の新城児童公園では血圧測定等の健康チェック、模擬店、ミニライブ。桜のブロードでは今昔写真展、下新城交差点の野生動物愛護センターではセンター員の説明つきで動物たちを特別公開してくださいませ。

若竹幼稚園ではせせらぎスタンブリング、管理棟では菊花展、小関橋脇では昔使った大きな味噌樽を利用して、子供たちを乗せてたらい舟を流すことになりました。たらい舟は既に八月の灯ろう流しの開始前に子供なら三人くらい、大人でも親子で乗れる大きなたらいで、既に経験のあるベテラン担当者が付き添いしますので安心して乗って楽しんで頂きたいと思っております。

私も乗りましたが、子供の頃を思い出して、そして風情もありせせらぎならではの楽しみになると思います。

また明津横のレストヴィラでは、大人気なのが絵展、人力車が皆さんをお待ちしておりますので、どうか奮ってご来場ください。

シンポの効果が出始め

ました!

せせらぎネット副代表 松本浩次郎

「第4回せせらぎシンポジウム」を6月17日に行いました。せせらぎ周辺にお住まいの「遊歩道愛好家」や、ネット会員等、大勢の皆さんが参加されました。川崎市からは公園担当の建緑政局と、水路担当の上下水道局から、夫々の課長さんが参加されました。

ネット代表、町会代表、学校代表のパネラーが、夫々の立場で「江川せせらぎ遊歩道」を、美しく快適な状態に維持するための意見や要望を、熱っぽく語りました。これに対し、シンポ前に重点箇所を下記された2課長さんは、問題箇所への対応策を淡々と語られ、前段の意見発表になりました。

休憩後に「参会者」から活発な質問や自由意見が発表され、俄然会議室の空気が熱気を帯びてきました。「夜間利用者が多いのが、照明が消えている」「子供たちがぶら下がっているボールが劣化して危険」「放置自転車などを撤去できないか」「明津橋、小関橋での自動車と散歩者の交差が危険だ」「水路の腐った柵



せせらぎネット及び関係団体イベント

- 森とせせらぎネットワーク
- 10月28日(日) 第6回森とせせらぎ祭り・メイン会場は橋公園・問合せ・事務局田辺766-5315・詳しくはHPやポスターにてご確認ください
- 神庭緑地を楽しむ会766-6434
- 10月27日(土) 高津区史跡と竹林ウォーク9時15分から神庭緑地。
- 11月24日(土) 9時ころ・落ち葉掻き・ツル籠編み・神庭緑地
- 井田市民健康の森を守る会777-0937
- 11月4日(土) 9時・どんぐり工作会
- 市民健康の森。
- 12月15日(土) 9時ころ・落ち葉掻き
- 市民健康の森。
- ひとみ座寄席を楽しむ会754-0506
- 11月11日(土) 3時と7時・ひとみ座

の改修と、小関橋上手の「じゃ籠」の固定化は出来ないか」など、具体的な指摘が噴出しました。シンポらしくないこれらの要望に、川崎市の担当課長さんは丁寧に対応され、しかもこの8月までに「照明」「ボール」「放置自転車」など、すぐ出来る問題を、すぐ実施してくれました。警察署に要望した「明津橋カブ・ミラー」も大型化し、増設されました。

せせらぎ公園部分の「枯れて消滅した植栽」や、「土壌流失」対策は、町会や各管理運営協議会が公園センターに要望すれば対応する、前向きな回答がありました。しかし「年

第五回江川せせらぎ灯ろう流し

元井田郵便局長 田辺 達夫

8月19日に江川せせらぎ灯ろう流しが今年も開催されました。

一番心配された天候は、幸いにも恵まれ、これだけでも灯ろう流しの成功は約束されたようなものでした。と言うのも第一回時の超ドシャ降りの体験が印象強く、それ以降毎回特に天候の心配が頭を離れませんでした。雨だけでなく下流側から吹く南風が強いと、灯ろうが上流側に戻され苦労してきたのですが、今年は比較的風が弱く助かりました。

こんな自然にも恵まれ、スタッフの熱意も伝わったのか、当日の人数は800人以上かと推計しました。希望的数字ですが、灯ろう流しセットを300個売り出したので、あながち違っていないはずで。

灯ろう流しセットの作製に当たっては、毎回試行錯誤しながらメンバーのアイデアで改良しています。最初の頃の灯ろうは、すぐに水が入り無惨な姿で沈没したり、そこまで行かなくとも、灯が消えてしまっただけで沈没してしまうものも数多くありました。幸いにも、今年は沈んでしまう灯ろうはほとんどありませんでした。

今年も灯ろう流しが無事終了し、お手伝いの一人として嬉しく思っています。スタッフの皆様、乙女文楽の皆様、大変ご苦勞様でした。おいしいビールを飲みましたでしょうか。私は終了後一人倍旨いビールを飲むことが出来ました。もっとも、私はいつ飲んでも旨いんですが。



間清掃費・千百万円の「水路の藻」「水質改良」対策や、「老朽化した」「水際の腐食柵」対策「公道と遊歩道の境界鉄柵のペンキ塗り替え」などは、川崎市行政が地道に研究・改良、予算化措置を期待することになりました。

今回のシンポでの話し合い内容は、「川崎市との確認事項」として、10町会の町会長に報告しますが、周辺住民と行政が真摯に話し合えば、解決の答えは見つけれれるという「善い実例」になったシンポになりました。

各地の祭を訪ねて 新庄市の山車づくり塾

佐藤 克明

山形県新庄市で、長年営業してきたスーパーのタイエーが突然閉店して、そこで生鮮食品を買い求めていた市民が困り、市が緊急対策として生協に出店してもらったという話は、今から十三年前。

文字通り弱肉強食の新自由主義経済は、市民の日常生活が困ることなどお構いなしの非情なやり方で現れる実例として当時注目されました。

今やそれは、福祉や文化行政にまで土足で入り込んできています。大阪市の橋下市長の、文楽やオーケストラなどに対する助成金をなくして自立を求める強引な政治がまさにそれです。

写真提供：新庄市商工観光課



各地の祭の衰退も、中心市街地空洞化や市民生活が一段ときびしくなったことが原因であることは、この連載でも時折触れてきました。同時に、それに対する後継者育成や、山車（だし）復活で、市民の知恵やエネルギーについても注目してきました。

新庄まつりは、八月に行われますが、ここで活躍する山車は、市民が木や段ボール、紙などで作り、そこに歴史や歌舞伎などの題材を選んで描いたり作りつけます。山車（新庄では「やたい」といっています）を作りながら祭を迎える「新庄まつり塾」は、市民が長年、自ら選んできた文化の在り方なのです。

「あがり」の研究とその治療法 長田奇一 臣「向れば、「あがり」やすい人の一般的な傾向は、

- ①自己評価の高いこと。
- ②緊張しやすい人。
- ③他人の批判や評価を気にする人。

の様です。言い換えると、勝気度、興奮しやすく、周囲に気を使う神経質な人。

この条件は普段の私には、当てはまりませんが、周りの状況が変わると、当てはまってしまふ事があるという事が分ります。それでは、如何したらあがりを回避出来るのでしょうか？もう少し読み進めてみましょう。すると、格闘技では、「勝つと思うな、思えば負けよ、負けてもともと」と無心で立ち向かえ！との教えだとか。詩吟の発表に読み替えれば、今ある力百パーセントが出せることを期待するな、八割程度でよしとせよ！って事らしい。ただし、そこには、今より上に、今日より明日へ、という向上心が無ければならないと、付け加えられています。そして又、最も大切な事として、修練を積むことによる自信の獲得せず、修練の積み重ねで、力を伸ばして行くことが必要とも言っています。

少し話が反れてしまつた様で、申し訳ありません。何れにせよ、メンタル面が最も重要な要素である事が分りましたが、具体的には修練によって自信を高めておく事、状況をイメージして、予習しておく事、などの他、催眠療法、自立訓練法などが有るようです。

お知らせ

せせらぎネットワークでは、広報紙やホームページから地域の皆さんやせせらぎ遊歩道を利用される方々からの「意見」などを随時募集しております。

また、隔月で行われる管理棟での写真展への出展写真も同時に募集しています。携帯で撮った気軽な写真は是非お寄せください。連絡先 760-0105 田辺E&K 兼 HP: <http://www.montoseejaq.net>

◆ ◆ ◆

は例年と比べ半減してしまつたようです。

◆ ◆ ◆

そういわれればと思ひ出し、てみると、確かにその頃編集者が外出しているときに、突然空にもくもくと黒っぽい雨雲が現れ暗くな

シリーズ「地産地消」 中原・高津の農家

今回の農家取材は、中原区・高津区での農家を紙面で紹介するようになり初めての果樹園です。

取材先の鹿島さんからのアドバイスで一歩良い時期に訪れることができました。8月24日、快晴の青空の下、取材に伺いました。午前中の早い時間ながら、じつとしてるだけで汗ばんでいきます。

それでも直販所開店の少し前の時間にはすでに長蛇の列ができていて、皆さん美味い梨を楽しみにしているようです。開店から30分ほどで完売となりました。

この時期、梨を販売しはじめるご毎日の光景のようです。編集者は以前すぐ近くに住んでいましたが気がつきませんでしたので、なんだか惜しい気がしてなりま



せん。もし知っていただければ毎年大好きな冷やした幸水をたべられたのに。鹿島さんのお話によれば、今年5月に降った雹の被害が大きく、収穫



鹿島園直販所
中原区下小田中2-7-14